

学級担任のまなざし 40

Okayama Prefectural Education Center

R2.8.4(Tue)

「回復する力」

ある小学校で持久走大会が行われました。

大会の2か月前から練習が始まりますが、先輩の体育主任が全校児童に向け、話をされました。「持久走大会では、全員が1位になることはできない。しかし、全員が全力で走ることならできる。全員が自己最高記録を出すことならできる。」短い言葉でしたが、子どもたちの真剣な表情からは体育主任の思いが伝わっていたことが分かりました。

大会当日、山道で安全確認の担当をしながら、走ってくる子どもたちを見ていました。「もうだめだ…」「歩こうか…」「止まって休もうか…」 そう思っていた子どももいたかもしれません。特に、集団の後ろの方を走る子どもたちからは、そんな声が聞こえてきそうでした。でも、目の前を通り過ぎるとき、子どもたちからは「でも、もう少し…」という声も聞こえてきそうでした。みんな、自分の心の中の自分と戦っていたのでしょう。背中を見送るとき、「自分に負けるな」という気持ちを送りました。

持久走の練習や大会を通じて、子どもたちは多くのことを学びました。勝ち負けだけではありません。中には、いつも通りの力が出し切れなくて悔しい思いをした子どももいましたが、その悔しさをどう次に生かすかを学べば、大切な学習となります。いつも上手いくことばかりではありません。失敗したとき、思うような結果が出なかったとき、自分の心の弱さに負けてしまったとき…、そこからいかに回復していくかが大切で、そうした回復力を育てる教育を進めていきたいと思いました。

持久走に苦手意識を持っていた子どもが、その日の日記にこう書いてありました。「ゴールした瞬間、『自分に勝った!』と思った。」